

平成16年度受賞パンフレット



—都市と農山漁村の共生・対流表彰事業—

第2回 **オーライ!ニッポン大賞**



第2回 オーライ!ニッポン大賞

本表彰事業は今年度で第2回目となりました。今年度も北海道から沖縄まで全国各地から多数の応募があり、応募総件数は115件でした。全体として、都市住民の受け入れ等において先進的な取り組みを展開している農村側からの応募に加え、都市農山漁村交流の農村側への積極的な働きかけ活動や橋渡しの役割を担っている都市側のNPOや関係機関等からの応募も見受けられました。本表彰事業への応募状況は、全国的に都市と農山漁村の共生・対流の取り組みが広がり、各地域で推進されていることを物語っています。

審査委員会における審査基準(*)は7つです。それをもとに、専門を異にする各委員が熱心に議論をし、様々な角度から評価を行いました。特に「都市と農山漁村が行き来している取り組みであること」、「地域に刺激や影響を与えていること」、「長年にわたり活動を継続していること」、「都市と農山漁村のお互いの住民が元気になるような取り組みであること」、「他の地域の参考となる取り組みであること」などという点を重視して審査を行いました。全体として、どの取り組みも優れたものであり、115件の応募の中からオーライ!ニッポン大賞6件を選定するのは、大変な作業でした。結果的に、受け入れ側(農村側)の取り組みである八千代町が滞在型市民農園をはじめとした各種ビジネス起こしにより多面的な都市農村交流を展開し、地域経済の活性化が図られている点が高く評価され、今年度のグランプリに選ばれました。

この他、惜しくもグランプリには届かなかったまでも、直売所を核に年間42万人もの入り込み客を誇る「からり直売所運営協議会」(愛媛県内子町)、都市側から自然体験・農業体験旅行の送り出しを推進している「日本生活協同組合連合会」(東京都渋谷区)など、いずれも他の参考となる優れた取り組みを展開しており、好評価を得ました。受賞団体組織の取り組みは、都市と農山漁村の共生・対流の推進のモデルとなり、今後、一層の発展が期待されます。

(*) オーライ!ニッポン大賞 審査基準

- ア 農山漁村地域を舞台とした新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること。
- イ 地域の個性を生かした取り組みであること。
- ウ 農山漁村地域を活性化する効果があること。
- エ 都市側、農山漁村側双方の住民の参加を促進する取り組みであること。
- オ 長期的な取り組みの実績があること。
- カ 効果が持続して発現すると見込まれること。
- キ 他の地域における応用性に富んでいること。

オーライ！ニッポン大賞 グランプリ

やちよちょう
八千代町

内閣総理大臣賞

ひょうごけん やちよちょう
兵庫県 八千代町



講評

地域産業が低迷する中で、平成2年から新たな産業として交流産業の創出に着目し、滞在型市民農園（クライנגアルテン）や宿泊交流施設、加工体験施設などの整備と併せ、農林業体験ツアー等により神戸市や大阪市などから年間31万人の都市住民を受け入れ、地域の活性化を図っている。町の交流関連施設はすべて集落の運営で維持され、高齢者や女性も含め160人余りの雇用創出に結びついているほか、農林産物の契約栽培やオーナー制度、都市部の小学生による農家民泊ツアーなど多様な取組を展開しており、交流による経済効果は12億円にも達している。

また、神戸市の商店街組合との交流や大阪市へのアンテナショップの出店を行うなど町から都市部への交流も積極的に展開しているほか、空き家情報の提供などにより町外からの移住者も増加している。

このように、滞在型市民農園をはじめとした各種交流関連ビジネス起こしにより、多面的な都市農村交流を展開し、交流人口の増大、定住人口の増加を通じた、地域経済の活性化、地域の所得増大をもたらした点が高く評価された。

オーライ！ニッポン大賞

ちよくばいじょ うんえいきょうぎかい
からり直売所運営協議会

えひめけん うちこちょう
愛媛県 内子町



講 評

「からり特産物直売所」は、農業に活気を取り戻そうと、農業者や行政等による検討を重ね、平成8年に会員183人により開設し、現在、360人の農家が運営に携わっている。直売所では、地元の農産物や加工品等の販売のほか、そば打ちやパン作りなどの体験教室や旬の農産物の収穫祭などのイベントを開催し、年間42万人の都市住民等が訪れている。農産物の販売においては、有機農産物等の安全・安心・新鮮さを追求するとともに、町内の病院や学校給食センターへの食材供給、県内外の料亭や消費者への宅配も行っている。

このような取組により、農産物等の販売額は4億円を超え、農家所得の向上とともに、町の経済発展に大きく貢献している点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

にほんせいかつきょうどうくみあいれんごうかい
日本生活協同組合連合会

とうきょうと しよやく
東京都 渋谷区



講評

本連合会では、都市住民（生協組合員）が自然豊かな農山漁村に出かけ、都会ではできない自然体験や農業体験を家族みんなで楽しみながら、自然と農村を理解してもらうことを目的に、グリーン・ライフ・ツアー（自然体験旅行）を実施している。ツアーにおいては、「訪れた地域の人たちとの交流」「参加者同士の交流」「家族との交流」の3つの交流を目的に、家族向けのファミリー企画と子どものみの参加ツアー「子ども自然体験村」を実施している。また、ツアーを実施した後は、参加者アンケートを実施し、体験プログラム、宿泊施設、応対、交流内容などについての改善点をまとめ次期のツアーに活かしている。

この10年間で16道県75市町村に3万人の参加があり、都市住民に対する農山漁村の魅力の情報発信、ツアー受け入れ地域の活性化に大きな貢献をしている点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

ほっかいどうきた

だいしぜん まな かい

北海道北オホーツクの大自然で学ぶ会

ほっかいどう はまとんべつちょう
北海道 浜頓別町



講評

本会は高齢化や後継者不足で過疎化が進む酪農地域の活性化と、「子供達を大自然の中で育てたい」という都市住民の要望を受け、山村留学の母体として1995年に住民の有志により立上げられた。留学制度は一家で移住してもらう「定住留学」、母親と児童が留学する「親子留学」、児童だけが酪農家などにホームステイする「里親留学」の3つを用意し、廃校舎の有効活用や宅地の無償譲渡などを行い、町あげて留学を応援している。

このような地域ぐるみの積極的な協力体制により、この10年間に全国から33世帯、55名の児童を留学させ、うち6世帯が移住し、地域の活性化が図られている点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

しがむら 四賀村

ながのけん しがむら
長野県 四賀村



講評

四賀村は、本格的なクラインガルテン（滞在型市民農園）を計131区画（簡易宿泊施設付き270～300㎡）有しており、日本の中山間地で最大級の規模を誇っている。数々の交流イベント等、四賀村民がボランティアで農園利用者（ガルテナー）の農作業の手伝いや相談を行う「田舎の親戚制度」や有機無農薬栽培の指導をはじめ、地域住民とガルテナーの交流活動が展開されている。クラインガルテンを通じて、都市住民に対して、真の癒しや豊かさを求めるスローライフを提案することを目的として、10年目を迎えた本年8月には、日本で初めて「国際クラインガルテンシンポジウム」を開催し、日本型クラインガルテンの発展方向を提案するなど、クラインガルテンの先進地としてリーダーシップを発揮している点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

とくていひえいりかつどうほうじん しらかみしぜんがっこうひとつもりこう
特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校

あおもりけん あじがせわまち
青森県 鱒ヶ沢町



講 評

本校は、世界遺産である白神山地の自然に触れながら自然の大切さを知るという環境教育を目的として、平成15年に地元の小学校の廃校を活用した自然体験型学校を開校した。修学旅行生や首都圏などからの都市住民を対象に、単なる観光ではなく山・川・海の豊富な自然を活用して様々な体験や農産物等の販売、植林や間伐などを地元住民の協力を得ながら実施しており、交流人口の拡大とともに就労の場の創出が図られている。このように、世界遺産・白神山地の自然保護の取り組みに環境教育を結びつけた活動は、都市住民に留まらず、地域住民の自然との交わりを促進し、同時に、地域経済の活性化、地域振興につながる実績をあげている点が評価された。